

## &lt; 堺・南大阪地域学シンポジウム記録 &gt;

## テーマ：世界市民とホスピタリティ

——「隔ての壁」を、取り払うために——

**<趣旨>** 最近よく、「ホスピタリティ」という言葉を耳にします。日本語で「歓迎迎える」と訳されるこの言葉は、キリスト教の伝統のなかで、社会の片隅に追いやられている人びとを、ささやかなりとも歓びをもって迎え入れ、そうした人びとが、社会のなかで、自分の「居場所」を見つけられるよう力づけ、支援することを意味しています。それは、私たちの間にある「隔ての壁」を取り払おうとする働きかけでもあります。この「ホスピタリティ」の精神を、「地域」との連携・貢献においてどのように活かしていけばよいのか、その方途を模索することに、本企画のねらいはあります。

日時：2006年11月11日（土曜日） 13：30～17：00

場所：桃山学院大学トマス館 2 階 102教室

テーマ：世界市民とホスピタリティ

——「隔ての壁」を、取り払うために——

主催：大阪府立大学

共催：桃山学院大学・桃山学院大学国際文化学会・人間科学学会

後援：和泉市教育委員会

松浦道夫桃山学院大学学長の挨拶の後、下記のように、基調講演と公開シンポジウムが行なわれました。

基調講演 「アジアの中の日本」

中山恭子（なかやま きょうこ）氏 内閣総理大臣補佐官・元ウズベキスタン・タジキスタン大使

**<要旨>**

ウズベキスタン大使として赴任した際の日本人技術者拉致救出の体験にはじまって、北朝鮮の拉致被害者救出にたずさわった体験談などを、パワーポイントを用いて様々な映像を示しながら、わかりやすく報告していただきました。講演のなかで特に強調されていたのは、アジアの隣人たちのおつきあいの大切さです。日本を理解してもらうためには、相手の歴史や文化をもっと知ることが大切です。そうすることで、双方のよりよい関係を築きあげていくことができます。そのためには政府主導のものばかりではなく、ひとりひとりの顔の見える草の根の国際交流が大切です。その活動にぜひとも手助けいただきたいとのことでした。

公開シンポジウム「世界市民とホスピタリティ」

シンポジスト

学生代表（ボランティア学生：中川賢太郎氏）

新住民代表（和泉市議会議員：浜田ちあき氏）

旧住民代表（大阪府立大学教授：岡 勝仁氏）

留学生代表（桃山学院大学非常勤講師：大野順子氏）

司会 山川偉也（桃山学院大学教授）

< 概要 >

ウズベキスタンでの様々な体験や、北朝鮮拉致被害者救出へむけての活動をわかりやすく報告していただいた中山恭子氏の講演をうけ、まずシンポジストがそれぞれにしてきた活動について報告しました。ついで「世界市民」となるための条件は何か、それぞれの実践活動の場で「ホスピタリティ」を実現していくにはどうしたらよいかなどについて、司会の山川教授との間で意見交換がなされました。シンポジウムの終了後、黒田研二大阪府立大学人文社会学部長より閉会の挨拶があり、公開講演会は無事終了しました。

なお中山恭子氏の基調講演とシンポジウムの質疑応答については、そのテープ起こしされた全文を、この桃山学院大学人間科学会の機関紙『人間科学』の2007年度版（33号）に掲載しました。

（本学社会学部教授 深澤 徹）

以上